

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 9月 4日

氏名 (フリガナ)	佐藤 真子 (サトウ マコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	昭和大学
学年	5年

プログラムへの参加の目的は、**Patient's History Taking**、そして **Case Presentation** ができるようになることでした。私は、6年生の臨床実習で1ヶ月間 **UCLA** に行く予定です。その際に少しでも役に立てば良いと思い参加を決めました。

大学の臨床英語の授業で **History taking** の方法は習っており、何度か練習はしていました。方法は分かってはいるものの、なかなか自分の言葉としてスムーズに話すことができない、という状況でこのプログラムに参加しました。プログラム初日の練習では、方法の紙を片手に医療面接とは程遠い状態でした。しかし、その日の夜ハワイ大学医学部の1,2年生を相手に練習を行い、自分の中で何かが変わりました。とにかく何度もトライしてみよう、という気持ちになったのです。毎回、学生やドクターから助言を頂き、ブラッシュアップすることで少しずつ自信がついてきました。始めは戸惑っていた面接やプレゼンも、最終日の夜にはメモを見ることなく取り組むことができるようになっていました。学生から **History Taking** をし、その内容をドクターにプレゼンする、これを時間が来るまで徹底的に繰り返す、この反復練習こそが自信と習得に直結していると実感しました。このプログラムのお陰で、帰国後大学の臨床英語の授業において、**SP** さんからの医療面接では堂々と自信を持って行うことができました。不安がなくなり、礼儀や話し方などにも目を向けることができるようになりました。**SP** の方や先生方からもお褒めのお言葉を頂くことができました。英語圏の現場に出る上で、欠かすことのできない英語での医療面接を習得することができ、大きく成長したと感じました。

医療面接とプレゼンの練習の他にもハワイで働いている日本人のドクターや現地のドクターからの講義、**Kuakini Hospital** 及び **St. Luke's Clinic**、**John A. Burns School of Medicine (UH Medical School)** の見学をする時間があり大変充実していました。ドクターからの講義では、具体的に先生方がどのような経緯で渡米されたのか、アメリカで医師として働く上ではどのような資質が求められるのか、今後どのように勉強していけば良いのかということをお聞きすることができ、ただ夢を見るだけでなく具体的に考えることができてきました。また、**Hospital/Clinic Visit** では **ER** や病棟の見学をし、職種ごとの業務範囲や入院期間において日本との違いも垣間見ることができました。

アメリカで医師として働くという夢を叶えるのは生半可な気持ちではできないと思います。しかし、実現されてきた先生から直接お話しをお聞きしたり、現地の医学生と交流をしたりすることで今まで以上にモチベーションを向上させることができました。医療面接という医療の土台に1歩前進することができたのではないかと考えています。さらに練習をし、より高いレベルにした上で今回身につけたスキルを来年 **UCLA** での臨床実習で活かしていきたいと思っています。また、今回は医療面接のプログラムでしたがこれをきっかけとして身体診察の勉強もしたいと思っています。そして、今回交流したのは1,2年生でしたが、大学を既に卒業しているというアメリカの医学生の特長性もあり、大変レベルが高く刺激を受けました。講義はなく、**PBL** による学習で知識を身につけ積極的に学ぶ姿勢が印象的でした。自分自身の現在の学習の方法を考え直す機会にもなりました。一緒にプログラムに参加したメンバーは皆意識が高く、同じような夢を持っていてこれから先もずっと繋がっていくことのできる出会いであったと思います。最後になってしまいましたが、このような機会を与えて下さった、日米医学医療交流財団、**HTIC** の皆様、先生方に感謝申し上げます。